

製造業

繊維工業／得意先からの発注時期が重なり、そのうえ短納期のために、生産が追いつかなく、断るケースも増えている。また、プリントの復活など新たな設備投資が必要となっている。

家具製造業／金利の上昇、株価の下落により景気の先行きに不安がある。

コンクリート製造／年度末工期の公共事業が順調に消化されたが、受注量全体の低下で出荷も伸びず、前年の93%程度で止まってしまった。大型物件の受注もなく、今後の出荷に期待ができない。

貴金属製品製造／地金価格が高いままで推移していることや、消費者ニーズの多様化により各社の受注ロットは少ない傾向にある。また、輸入品の増加もあり、製造各社厳しい経営状況である。

非製造業

衣料品卸売／春物がはじまり、仕入が上昇するかに思われたが、価格帯の低い商品しか動かず、高額商品はロットが少なくなってきたおり、収益は改善されていない。

食料品小売／食肉の小売りと外食関係への卸売りに共に低調。ユーロ高の影響で、輸入豚肉の価格が高騰している。

自動車小売／高級車及び軽自動車は売れ行きが順調であるが、小型車は各社苦戦していることから、収益で見ると昨年とほぼ変わらない状況。人口減による購買層の減少に対する対策は急務である。

油コストの下落と円安が進み、元売りは若干の値下がりとなったが、各小売店は経費の未稼働分があるため、小売価格は変化していない。

宿泊業／「風林火山」の良影響により、売上げはやつと前年並みとなった。鉄構工事／県内の建築物件が少なく、多くの組合員が稼働率を落としている。大手は他県の物件でのいであるが、地元密着の組合員は、量・単価共に厳しい状況にある。

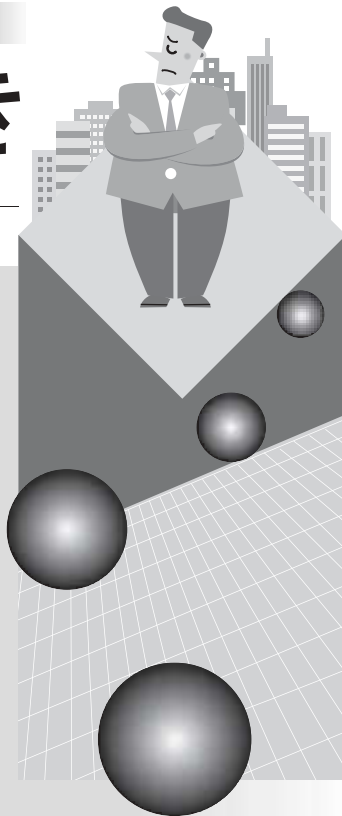
管工事／年度末となり、多少物件は出てきているが、先行きは不透明である。輸送業／（バス）暖冬の影響により仕事量が少ない。単価も低下しており、会社運営は非常に厳しい。（トラック）暖冬の影響により石油等の需要が落ち込み、輸送量も大幅な減

データから見た

業界の動き

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告(平成19年2月分)



平成19年2月の月次景況調査(情報連絡員報告)の結果、「製造業」のDI値は、売上高 - 35ポイント(対前月±0)、収益状況 - 20ポイント(対前月+5)、景況感 - 25ポイント(対前月+5)と、売上高については過去一年間の中で最も悪い数値のまま推移。

「非製造業」のDI値については、売上高 - 36ポイント(対前月+7)、収益状況 - 30(対前月+16)、景況感 - 33(対前月+20)と多少回復を見せている。

各情報連絡員に対して「来年度に向けての見通し」について調査を行ったところ、楽観的な意見は皆無で、平成19年度も厳しい状況が続くとの意見が大半を占めている。

少となっている。

平成19年度の見通し

食料品製造／少子高齢化の影響と菓子業界の不祥事の影響が県内企業にも

及ぶことを心配している。貴金属製造／宝飾品市場の規模が小さくなってきた増加によって厳しい経営を強いられることが予想

される。

機械器具製造／忙しくはなると思うが、ロットは減少傾向にあり、収益の確保は難しいと思われる。鉱業／製造原価を低くすることができず、出荷が好調となっても、収益の好転は望めない。

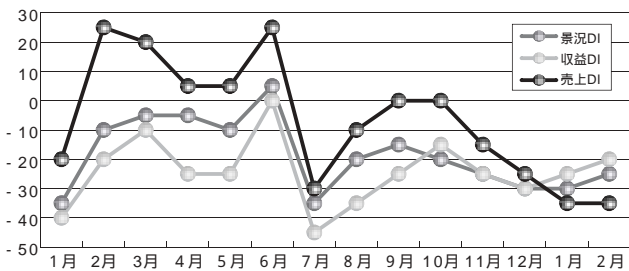
卸売業／再度、中小企業の再編が始まるとの見方が強く、本来小回りの効く中小企業の活力は停滞気味である。

宿泊業／大型観光キャンペーンやNHK大河ドラマの放映、また、風林火山博などによって県外からの観光客誘致に若干期待がもてるが、各社収益は厳しい。

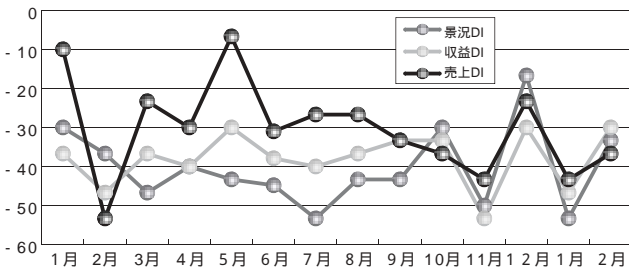
自動車サービス／中央は景況見通しが良いとのことである、地方の見通しは暗い。

職別工事業／平成19年度も業界内で明るい話題は出ていない。公共工事は予算ベースで3%程度減額される予定であり、過当競争が続くと思われる。

製造業 (DI値の推移)



非製造業 (DI値の推移)



合計 (DI値の推移)

